

# まちづくりと施設

変わる。変える。つくり変える。

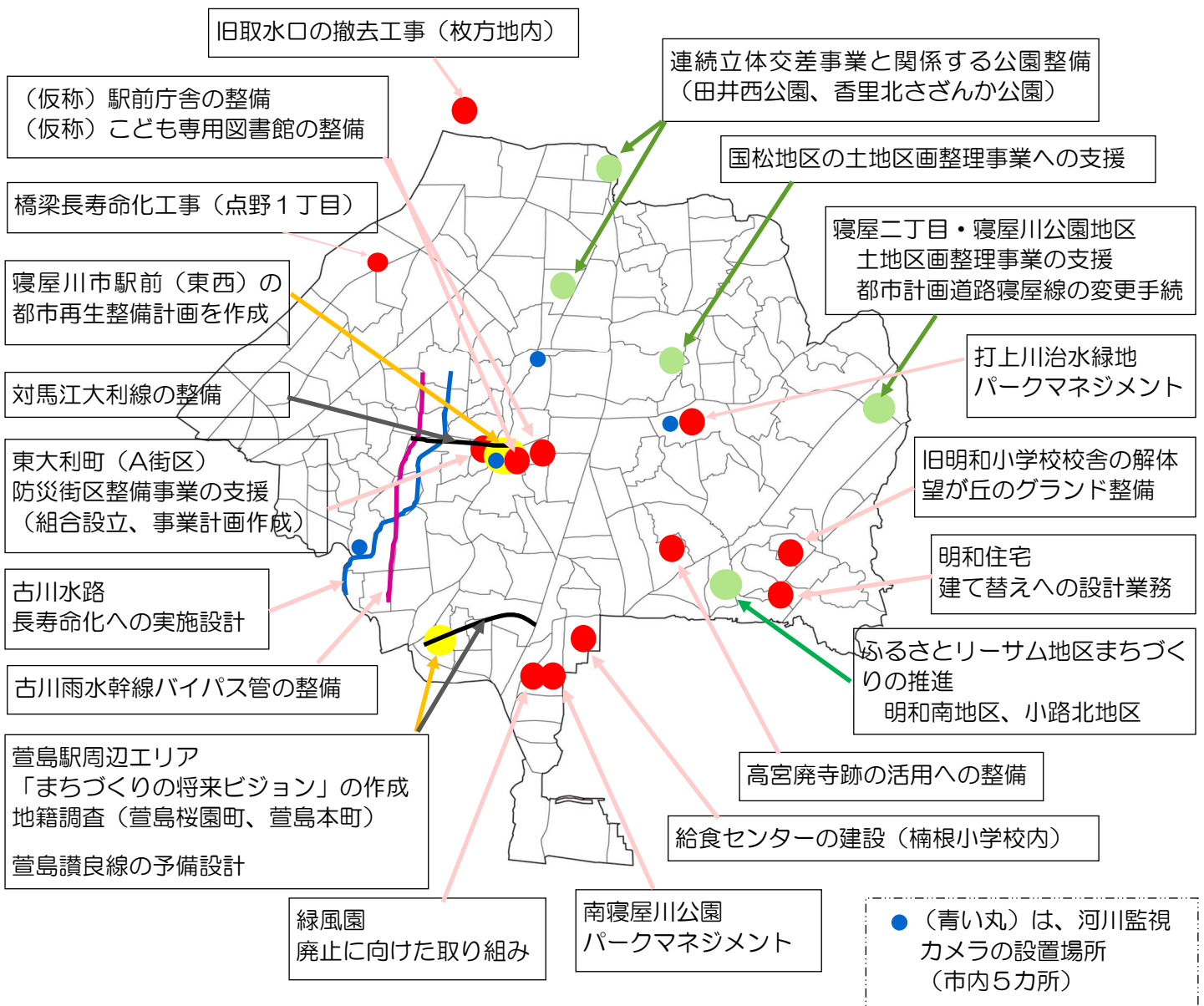
令和6年度当初予算で決定した事業の内、まちづくりに関連する主な事業を地図上で記しました。

「新たにつくる」事業もありますが、開発・建設から一定期間が経過したことで「つくり変える」「改修する」事業のウェイトが大きくなっています。

例えば、「新たにつくる」事業としては「土地区画整理事業」「給食センターの建設」がそれに当たります。

「つくり変える」事業としては、「まちづくり」と「建築物」に大別され、「まちづくりの再生」としては「寝屋川駅の東西駅前再整備事業」「かやしまりノベーション」「ふるさとリーサム地区まちづくり事業」などです。「建築物の再生」としては「駅前庁舎」「こども専用図書館」「明和住宅」「古川水路の長寿命化」などです。

さらに、本市単独で行っていた事業からの転換を図ったことで、施設が閉鎖され解体へ取り組むのが「緑風園」と「浄水場につながる取水口」です。



## 小学校とコミセンの体育館にエアコン

すでに中学校の体育館にはエアコンが設置されています。先行したのは、中学校はクラブ活動など利用機会が多いことが主な理由でした。

近年では、気温の上昇による熱中症の危険性や、能登半島地震での避難所活用などがクローズアップされています。

気温変化に順応する能力が中学生より小学生は劣ることや、大規模災害の場合、避難所が開設される順序はコミセン、小学校、中学校、その他となっていることから、議会からエアコン設置の導入が指摘されていました。

小学校エアコンは設計と発注業務が予算化されましたが、来年度の夏には利用ができるよう、工事時期の前倒しを要望しております。

## 学校トイレ洋式化に集中的に取り組む

家庭では洋式化が進み、「和式トイレの利用方法が分からない、使用しづらい」社会となっています。トイレの洋式化には一定取り組んできましたが、より一層進める予算として約7億5千万円が予算化されました。令和5年度時点では約47%、令和8年度に100%とする計画です。

和式から洋式に改修すると、必要面積の関係でトイレの個室数が減る場合があります。また、学校ごとに児童生徒数をトイレの数で割ると、1カ所当りの児童生徒数に大きな違いがあることから、その差の改善を要望しております。

## 望が丘小中一貫校と関連する課題

校舎棟が完成し4月から学び舎として利用されていますが、全てが整ったわけではありません。6年度は旧明和小学校の校舎棟を解体し、グラウンドとして整備していきます。

一貫校に関連し、旧第四中学校（本年度はグラウンドを使用）、旧梅ヶ丘小学校（本年度は給食調理場を使用）の跡地の活用は未決定であることから、早期提案・早期決定を求めています。

## 学校給食センター整備の最終段階

令和7年4月からの稼働を予定しています。給食センターの建設工事は12月までの予定で、完成後、委託事業者である「(株)東洋食品」によって試し炊きや配送ルートの試走など準備行為が行われます。

施設には約70人ほど従事することになり、その内、地元採用は62人程度との見込みが委員会の答弁で確認できました。運営費用の経済合理性に加え、雇用確保面でもメリットがあります。

## 寝屋川市駅周辺の取り組み

### 東西駅前広場をリニューアル

以前の一般質問の答弁で駅前再整備の可能性を言及されてきました。対馬江大利線の整備、ターミナル化構想を踏まえ、寝屋川市駅の東側と西側のリニューアルに向けスタートします。

本年度は「都市再生整備計画」の作成にとりかかります。この計画は国からの補助金を受けるために必須のものです。

### (仮称)駅前庁舎を整備しています

昨年12月議会で建築主体工事の契約議案が可決し本年10月末完了予定で進められています。その後にはデジタル関係や電話などの配線工事、庁内備品の調達が必要になります。新たに市民サービス関連システムを今とは違う場所で稼働させるには最低でも3日間必要と答弁されています。現時点では、駅前庁舎の開所時期は決まっていますが、その期間がとれる時期が開所の目途になります。

また、最大の懸案事項であった駐車場については、アルカスホール東隣の立体駐車場全体が確保できる旨の答弁がありました。

## かやしまり/ベーションプロジェクト

### 萱島駅周辺エリアの将来像の策定

関係団体や地域住民への意見聴取などを行い、新たな価値と魅力を創出するために、まちづくりの将来像を定めた「将来ビジョン」を策定する予定です。

### 萱島講良線を整備するための次なる準備

現在、準備行為として地籍調査を行っています。次の段階として道路の線形を確定するための予備設計に入ります。

## 治水・浸水対策の関連事業

### 古川水路の長寿命化対策

古川水路とは、御幸西町地点から上流を指します。これまで「用排水路」への長寿命化対策の必要性の指摘に対して、市は「半永久的構造物」という位置づけから後ろ向きな姿勢でした。この度、大阪府が実施主体となることで有利な補助金が活用できることから大阪府事業へ負担します。大規模な改修工事ではないとの説明でしたが、傷んでいる所を修繕することは重要な取り組みです。

### 河川の水位、増水状況をHPで確認

台風などの大雨の時には河川が増水します。その状況を現場まで確認に行くのは危険が伴います。そこで市内の水路などを常時監視できる暗視用カメラを5台設置し、ホームページで公開する予定です。寝屋川の桜木水門付近、外島橋付近、古川水路の高柳5丁目地内と打上川治水緑地に2台。